

## 「体験発表会」を行いました

日 時：2025 年 9 月 30 日（火） 午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分

場 所：八王子クリエイイトホール 10 階 第 2 学習室

出席者：33 名（男性 13、女性 20）

発表者：佐藤幸子様（友の会副会長・西東京支部相談役）

福島一男様（西東京支部会員）



猛暑がやっと収まった 9 月末、当日は曇り空で外出しやすい午後でした。

大先輩のお二人には当時を思い出しながら貴重な体験をお話ししていただきました。

まずは、志水支部長の挨拶、発表者の紹介で始まり、戸川達男会長（西東京支部会員）よりご挨拶をいただき、体験発表と進みました。

終了後は返信はがきに書いていただいた会員の皆様の近況報告をお伝えして、清水副会長の「またお会いしましょう！」の閉会の言葉となりました。

発表者のお二人に内容をまとめていただきましたので掲載いたします。

## ペースメーカー歴史の歩みと共に

6 佐藤 幸子



東大病院で手造りペースメーカーが始められて3年目、12人の方々が手術を受けられ、私は13番目でしたが、日本製の第一号の日本電気様の体外式ペースメーカーを昭和41年に全身麻酔で、開胸して心筋に直接リード線を縫い付け、心臓への刺激パルスを受ける受信コイルを胸の皮膚のすぐ下にいれ、体外からは送信コイルを密着させて刺激パルスを送ります。電池は弁当箱位のものを括り付けて毎日充電するという物でした。送信コイルが胸から少しでも離れると直ぐに苦しくなる為、元会長の堀先生・三井先生が下着メーカーのワコールさん呼んでコイルを押さえる為にブラジャーを作るように手配して下さいったのです。

その後ペースメーカー植込み後3年目に日本メドトロニック様の外国製植込式に変更、耐用年数2年との事。

しかし2年持たずに、手術という事が多く感染、断線、閾値上昇（現在は外から操作）、亀裂、電池早期消耗等々あらゆる経験をしましたが、ペースメーカーはどんどん進歩し耐用年数も5年から10年以上となり、器種も機能も多くなり、体外から調整出来るペースメーカー、CRT、リードレス、ICD等が出来、より多くの方々の命が守られていることは、驚くべき事で有難く喜ばしいことです。まさにペースメーカーの歴史と共に生かして頂いています。

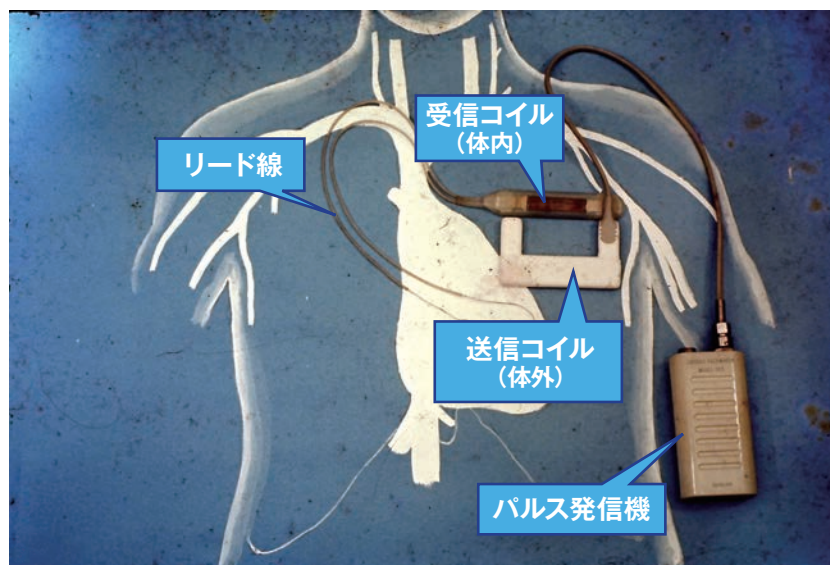
お陰様で私は始め何年生きられるか保障はありませんでしたが、せめて10年

でもと思ったのが、なんと 59 年も生かしていただけるとは夢にも思いませんでした。

また、最初の手術後、先生からは是非仕事を続けるように言われて辞めず、全く他の人と変わらず残業もして 73 歳まで勤めました。

退職後半年して、「友の会」の事務所で会創設時のお手伝いにも加わる事が出来ました。今日まで、「友の会」のお仕事に携わらせて頂き心から感謝致しております。

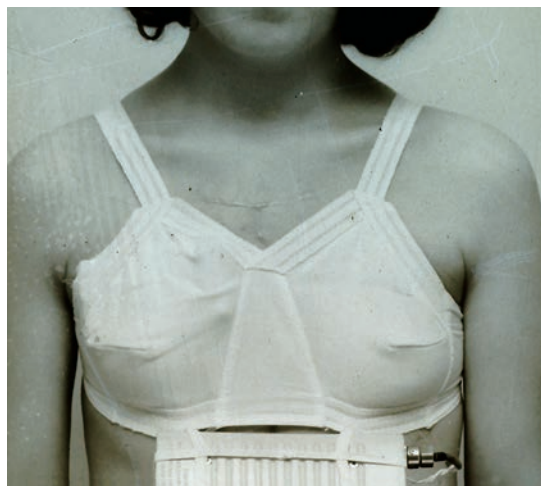
ペースメーカー植込みをして失ったものもありますが、それ以上に得たものの方が多く、素晴らしい方々との出会い、ご親切、感謝の心等私の大切な宝です。これからも皆様とご一緒に「友の会」の目標の感謝・報恩・奉仕の心を忘れずに神様に命与えられている限り励んで参りたいと思います。



#### ＜直接誘導型ペースメーカー＞

三井先生と戸川先生の開発したこのシステムで患者はベッドを離れて日常生活が出来るようになった。

左の写真は送信コイルを内側に装着した特製のブラジャーでその下に見えるのがパルス発信機







サラリーマン生活 40 余年、今年 86 歳、第 2 の人生船出の時、真逆のことが起きました。

56 歳の時健康診断を受診、その結果「不整脈あり」と先生に告げられた。話によると、「このまま進行すると心臓にかかわる重大な病気に進む可能性が考えられる。」と告げられた。その話を聞いて早速、最悪のことを考えてこれからお世話になるかもしれない病院探しを始めた。医療機器が十分に揃い心臓手術ができる病院で、通常は近くでできれば心臓にかかわる先生を探し求めていた。すると、某医療センター出身でさほど遠くないところで開業しているクリニックがあるとの情報を得て決めました。何時重大事が起きても某医療センターに繋がりができると一安心した。

8 年後現実には起きた。ある日、散歩の帰り道、一気に土手を駆け上がったが、動機息切れが激しく一休みして自宅に帰ったが、その時はただの疲れかなと思った。これが最初の出来事でした。数日後散歩の途中、体がだるく足が重く、ひどく疲れたので鉄橋下のベンチに横になって一休みしていると頭上に電車が通っても全く音が聞こえなかった。また、所要があつて外出した時、何時もなら休まず行けるところを度々休んだ。決定的になったのは、仲間たちと浅草へ剣舞の小道具を買いに出かけたが、八王子駅のホームから（今はエスカレーターがあるが）階段を使い途中何度か休み、中ほどまで行くといつもより激しい動悸と息切れ、立ち眩みで足が前に一步も進まなかった。残りは四つん這いで上がりタクシーで

帰った。後で気が付いたが、そのままクリニックに駆け込んでいたら？こんな単純なことに気が動転し判断できなかった。翌日クリニックで24時間ホルター心電計を装着した。確かな記憶ではないが、先生から、8から9秒心臓が止まっていると言われ、この時間帯に何か異常がなかったかと質問されたが、特に異常がなかったと返事をした。

先生よりペースメーカーの話が出て入院を決めたが、ゴールデンウィーク前で即入院はできず5月12日に入院した。手術当日、午前中に終わると聞き病室を出た。手術室に入ると沢山のモニターが目に入った。手術が終わったのは5時前だった。時間がかかったのは心停止のトラブルの発生と聞かされた。私の姿を見て涙ぐんでいた妻の姿を今でも忘れません。

部屋に帰ると仲間たちが大変に喜んだ。5月末日無事退院。ペースメーカーの設定はVVI。4か月後同室の仲間が遊びに来られたが翌年亡くなり愕然とした。それから今まで以上に生活習慣に気を配った。3年後心房細動による脳梗塞になったがt-PA療法で大事にいらなかった。

あれから23年、電池交換を3回したものの、今ではグランドゴルフ、ボウリング、カラオケ、詩吟、麻雀、将棋、新たにギターに挑戦、株取引、郷土の歴史、畑仕事をしてデイサービスに通い楽しく充実した日々を過ごしています。

58年連れ添った最愛なる妻を失い、今では慣れない家事仕事をしています。何一つ文句を言わず家庭を守り私の健康に留意していた。今では遅いが心より感謝をしています。

反省点として、日々予兆があったのにもかかわらずただの疲れと自己判断の誤り。良かった点は、不整脈から事前準備ができスムーズに運んだこと、そしてこのように元気でいられるのはペースメーカーのお陰です。ご尽力いただいた各先生方スタッフの皆様、家族に感謝いたします。これから先生活習慣をしっかり守り、元気で明日に向かって頑張ります。ありがとうございました。

